

平城宮跡第21・22次発掘調査報告会資料

1965・2・13

奈良国立文化財研究所

# 平城宮跡第21・22次発掘調査報告会資料

平城宮跡の第21・22次発掘調査は東面北門（山門）の東西にわたる地域で、昭和39年4月より行われ、現在も繼續調査中である。

今回の調査地は第2次内裏の東外郭から山門に至る地区と山門東部の東一坊大路を含み、発見した面積は全体で82.9アールに達した。発見した遺構は建物56棟・塀地2系・堀12条・溝11条・井戸4ヶ所（2月12日現在）で全体に土礫窓にわたって建てかえられている。

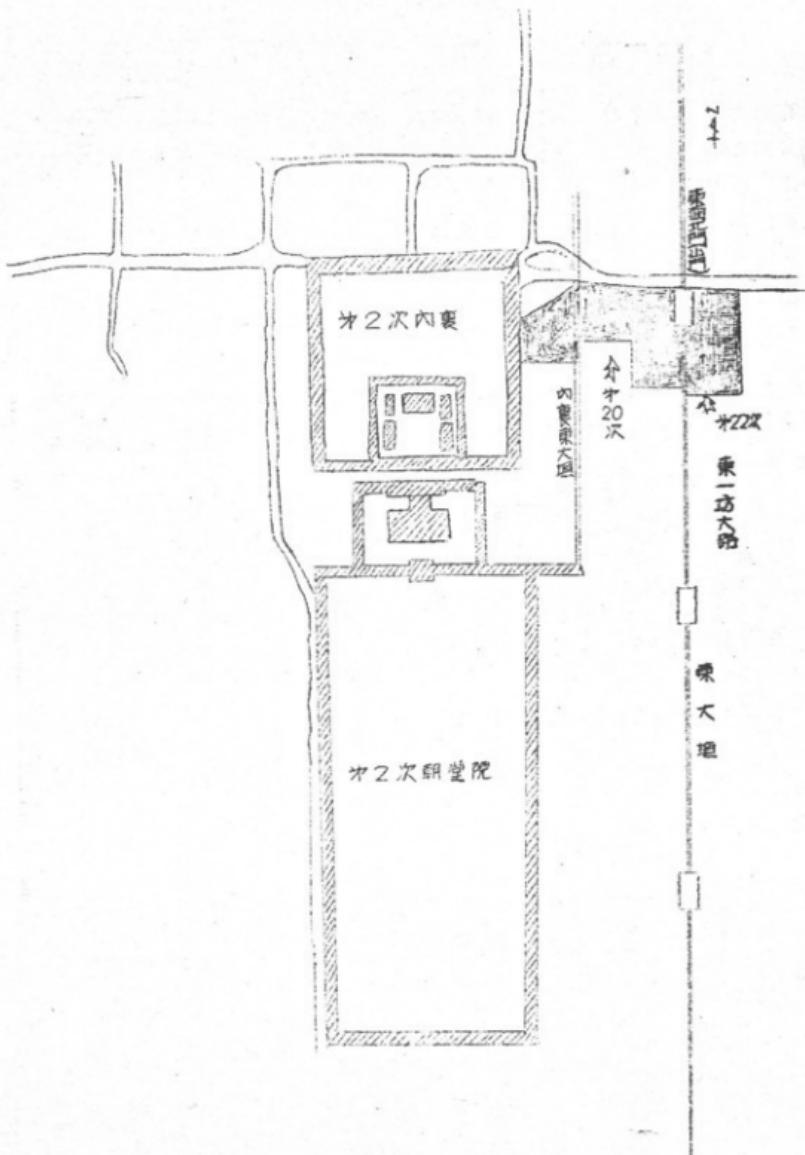
今次調査の主な成果は内裏東外郭東部にあつては東を限る大垣が検出され、衝柱を持つ構造であることが判ったこと、第2次調査で発見された凝灰岩礎石の南50mからこれに平行する溝が発見され、この間に多段の官房建物が検出されたことである。

内裏大垣と山門の間では大垣から20m東で南北に通る玉石積の溝が検出され、溝の中から多段の木筒も含む多量の遺物が出土したこと、および山門から西へ向つて砂利敷の宮内道路が設けられ、宮内建物はその前に区割を設けて配置されていることがわかつたことである。

山門東の東一坊大路では並列の中央から築成を有した井戸2通が一対になつて出土し、そのうち東側のものは平面が2.8m×5.2mぐらいの矩形で、中の水を中段から暗渠で南へ抜いている特徴的なものであつた。なお東面北門の跡はすっかり削平されてしまつてゐる。

## 平城宮跡第21・22次発掘調査発見遺構統計一覧表

期別	内裏東外郭		山門東山門門前		東一坊大路		備考
	建物面積	面積	戸数	戸数	溝	溝	
第21・22次	2 (1)	3					
第21・22次	4	1	2	7	1	1	天正17年後
第21・22次	5	1	6	4	3	1	天正宝永前
第21・22次	3	1	4	2	1	1	
第21・22次	5	1	5	1	2	1	道筋
その他	5	3	3	1	1	1	
合計	21	12	28	55	19	12	42



道 物

遺物は木筒を始めとし、全域から多数の瓦類、土器類、火大、銅鏡が出土した。

木 簡

本管は東大溝で 290 灰、奥一井大野で 90 灰が発見された、次にその若干を例示する。

東大清出土木簡

七  
馬  
口  
川  
出  
田  
場

表「辛苦之商人夫持少，察皆僉

法解仙斗如鼓進风口若口狀

卷之十六

「民部省召減多口口口  
贅土酒佐美万昌」

「總會有個最可怕的魔頭呀！」

宣德行太師公司中都衛軍國校閱

日 月 二十日 天正元年  
西 十二年 一月 二十一日

处「淡路國三原郡阿麻鄉产生」。产地同上。日本原产。

卷之三

卷之三

口誨鄭英多鄉户主

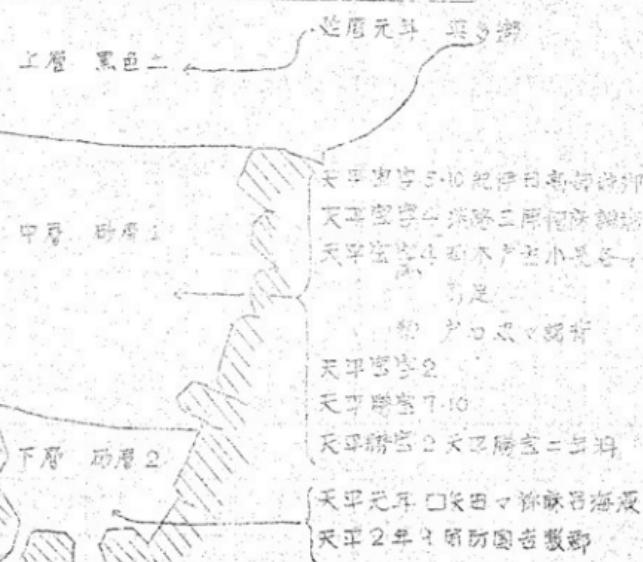
延曆元口

東一坊大塔出土木簡  
 東 「塔邊國赤穂郡口口口」  
 西 「五保縣道虫赤水立斗」  
 (左側面の印跡)  
 「西村郷物 沖米五斗」  
 「丹波到能郷郡西村郷地、穴窓五斗」  
 「浪賀國守治郡金比等子口」  
 「實垂元年口」

東大塔で検出した下限は、天平元年より延暦元年にわたっており、出土層序を示すと次のようになる。

東大塔断面

本 築



その他齋中から出土したものは、和銅開珎・万年通宝・神功開宝  
など銅鏡のほか、「天長節」の墨書きもつ土器、三彩袖・二彩袖・  
綠袖などの施袖陶器、陶瓶、土馬・紡車車、人形、梳扇などがある。

東一坊大路ご出土した木簡の大部分は宮外の外壁から検出したものであるが、そのうち、宝亀元年の年紀をもつものは、井戸の排水溝から出土したもので、大路上の井戸が、奈良時代末には寺した事を示している。

その他、特に顯著な遺物としては、内裏の内部から、直径30cmにあよぶ獸脚をもつ円鏡が出土した。また井戸からは、木形の人形、綠釉陶器などが出土している。

山門の西南の整地層からは、多数の瓦類と土器類が検出されているが、それとともに土馬が数点検出されている。

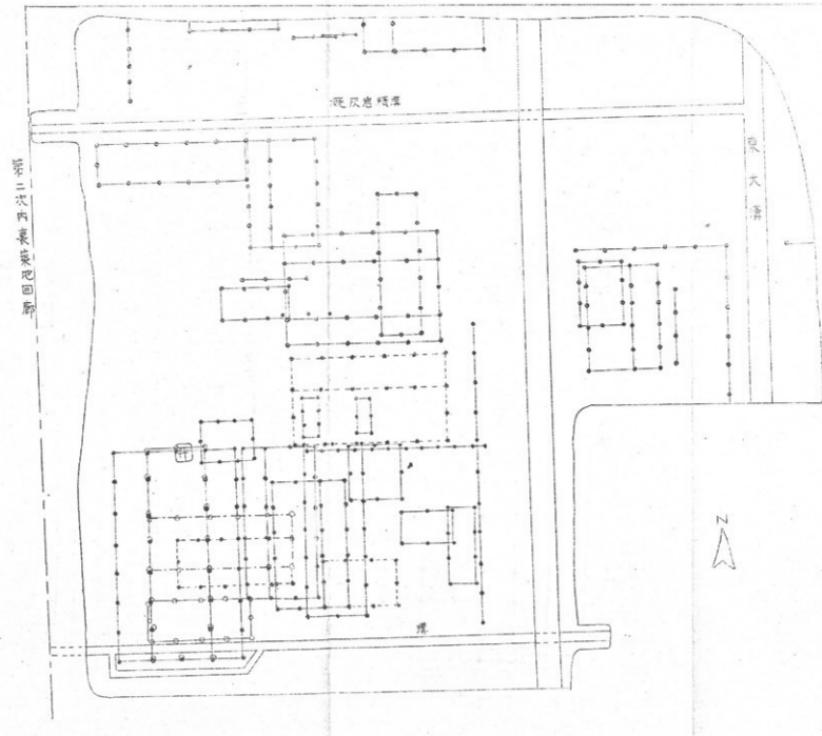
耳穂は、全域にわたり出土しているが、各地域出土の軒丸・軒平耳の割合については、次のようになっている。

### 6AAC区出土地別軒丸・軒平瓦分類表

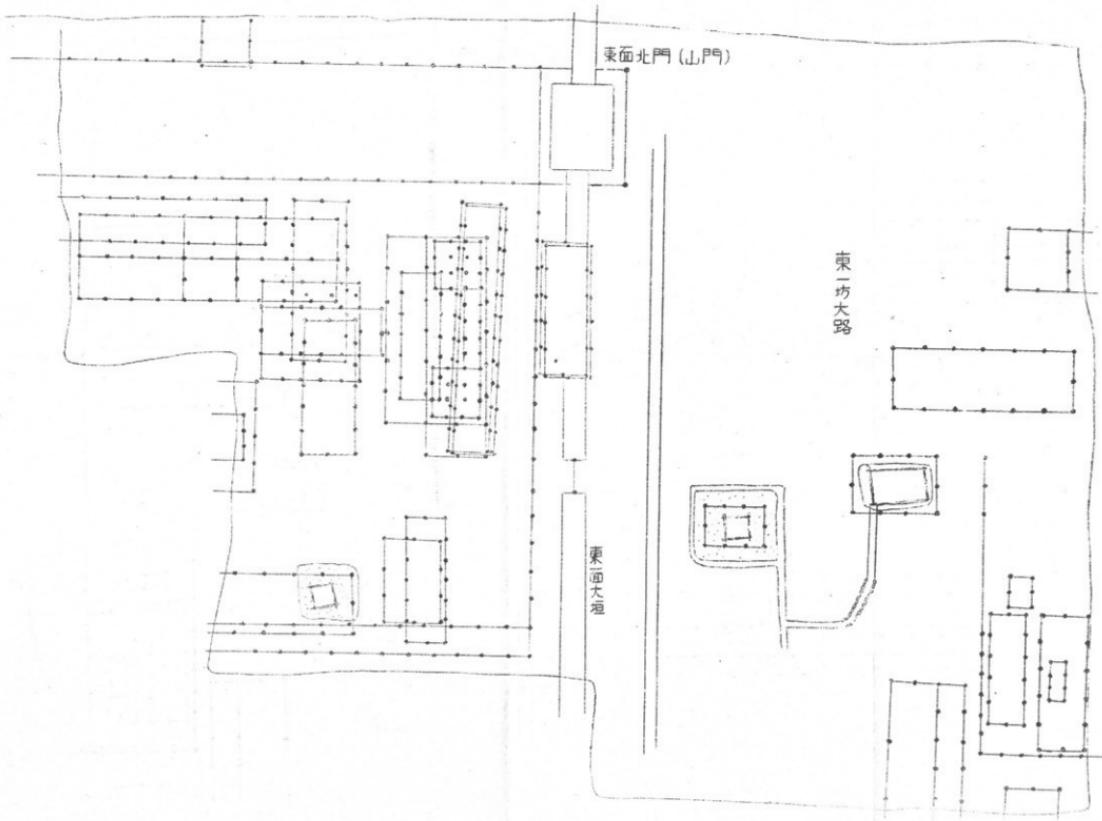
21-22 次				369次				369次				21-22 次			
東	山内	東	東	内裏	内裏	内裏	内裏	野丸貝	野平瓦	野丸貝	野平瓦	内裏	内裏	内裏	内裏
大路	西南	大路	西南	内裏	内裏	内裏	内裏	内裏	内裏	内裏	内裏	内裏	内裏	内裏	内裏
%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
3	11	8	6	6	6	6225	6663	9	12	25	9	6			
6	4	31	58	39	39	6311	6664	42	63	22	11	3			
0	2	7	11	31	31	6313	6685	15	8	8	7	3			
2	4	0	0	0	0	6314	6666	18	2	2	3	2			
63	5	15	9	12	12	6282	6721	10	4	10	5	53			
5	54	17	3	0	0	6135	6688	0	1	13	53	10			
11	2	7	2	0	0	6133	6732	0	1	9	0	10			
10	18	14	11	12	12	その他	その他	6	9	11	12	13			

平成官跡第21次発掘調査発見遺構(西半部)

一条通り



平城宮跡第21.22次発掘調査発見遺構(東半部)



## 平城宮跡国道24号線バイパス建設予定地調査概要

### 1. 第22次北地域発掘調査

期 間 昭和39年11月10日～昭和40年5月15日

検出遺構 堀立柱建物10棟 井戸2基 潟5条 柵4条

面 積 31a

宮城東面北門の推定された場所であるが門を確認することはできなかつた。また、東一坊大路も明らかでなく、大路推定地上には、堀立柱建物、井戸、柵などが検出され、出土遺物(木簡、甕)などから造酒司関係の役所の所在を予想することできる地域である。

### 2. 第22次南地域発掘調査

期 間 昭和40年2月4日～昭和40年7月3日

検出遺構 堀立柱建物7棟 井戸1基 潟9条 柵13条

面 積 43a

東一坊大路の推定地には第22次北地域と同様に建物、柵、溝、井戸などの遺構が錯雜し、道路の存在を疑わせるものである。また、東一坊大路に直交すると考えられていた一条大路も同じ状況にあり、東の宮城を示す大垣も検出されず、東面中門もまた、発見されなかつた。

### 3. 第3 2次発掘調査

期間 昭和41年1月6日～昭和41年4月20日

検出遺構 東一坊大路道路敷 二条大路道路敷

堀立柱建物4棟 柵2条 築地2条 井戸1基

溝8条 壁2基

面積 40a

宮城東南隅で、東一坊大路（幅19m）二条大路（幅3.5m）の交叉する状況が明確となつた。これらの道路はそれぞれ側溝および三条一坊、三条二坊を限る築地をともなつており、遺構の残存状況が明らかである。

### 4. 第3 9次発掘調査

期間 昭和41年2月8日～昭和42年5月10日

検出遺構 基壇建物1棟 堀立柱建物7棟 柵3条 築地3条 溝12条

面積 38a

この地域は宮城東面の大垣に沿つた東一坊大路に一・二条間の条間大路がつながると考えられていた場所である。ところが調査の結果、東一坊大路は北へ延長しないで条間大路に接続している。また、ここで東一坊大路上に南面する形で門

の存在が明らかにされた。

そのため、この地点より条間大路に沿つて東へ宮城が拡張されていことが判明した。

#### 5. 第43次発掘調査

期 間 昭和42年9月18日～

検出遺構 建物5棟 築地/条 櫛7条 海6条 暗渠/条

面 積 332

第39次発掘調査地域の北に隣接した地域であり、昭和42年11月27日現在、東院の一部かと推定される南北にのびる築地・櫛・溝などの遺構や三彩綠釉の施された瓦等が発見されている。